

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
高木 典子			
火5			
添付ファイル			

科目の概要	<p>発達心理学の中でも特に乳幼児期の発達に焦点をあて、年齢ごとの発達の諸特徴を見ていく。発達過程の変化を捉える軸としてピアジェの認知発達理論についても改めて学ぶ。  将来保育・教育現場で乳幼児期の子ども達に関わっていこうと考えている保育コースの学生を主な受講生として想定している。発達過程の中で、様々な問題に直面する子どもたちの育ちに寄り添える保育者となるように、今の子どもたちを取り巻く環境の諸問題についても学び、子どもたちの健やかな発達を応援するサポーターとして何ができるのか、受講生一人ひとりに考えることを求めていく予定である。</p>		
授業の内容	第1回	初回ガイダンスと発達心理学の復習 発達心理学の復習。 授業の進め方について。 乳幼児心理学とは？ 教科書：1章	
	第2回	発達理解の基礎 発達をとらえる視点と発達段階の考え方 保育の場における年齢区分 教科書：4章	
	第3回	0歳児の発達 感覚運動期 0歳児の運動・社会性・認知の発達特徴 教科書：5章	
	第4回	1歳児の発達 対人関係の拡がり 1歳児の運動・社会性・認知の発達特徴 教科書：6章	
	第5回	2歳児の発達 前操作期 第一次反抗期 2歳児の運動・社会性・認知の発達特徴 教科書：第7章	
	第6回	3歳児の発達 身辺自立 3歳児の運動・社会性・認知の発達特徴 教科書：第8章	
	第7回	4歳児の発達 描画の発達 遊びの発達 4歳児の運動・社会性・認知の発達特徴 教科書：第9章	
	第8回	4歳児の発達 描画の発達 遊びの発達 4歳児の運動・社会性・認知の発達特徴 教科書：第9章	
	第9回	5, 6歳児の発達 前論理的段階から論理的段階へ 他者視点取得 5, 6歳児の運動・社会性・認知の発達特徴 教科書：第10章	
	第10回	生涯発達と乳幼児期 生涯発達の中での乳幼児期 初期経験の重要性 教科書：第11章	
	第11回	障がい児と保育 障がいのある子どもへの関わり 教科書：第12章	
	第12回	子ども理解の方法 保育の中でひとりひとりの子どもの発達をどのようにとらえるのか。 教科書：第13章	
	第13回	発達と環境 子育て中の親子の置かれている現状 今の保育者には何が求められているのか。 教科書：第2章 現代の子育て社会	
	第14回	発達と環境	

	<p>子育て中の親子の置かれている現状 今の保育者には何が求められているのか。 教科書：第2章 現代の子育て社会 まとめと試験について 保育者の成長過程 授業のまとめ 教科書：第14章 保育者として育ちあう</p> <p>第15回</p> <p>定期試験</p>
学習到達目標	<p>①乳幼児期の発達のより詳しい特徴がわかる。 ②乳幼児期に特有なものの見方・考え方の特徴がわかる。 ③子どもを取り巻く環境の諸問題を複数述べるができる。 ④保育の中に心理学的知見がどのように生かされているのかがわかる。</p>
授業の方法	講義形式とする。
成績評価の方法	受講態度(15%)、小テスト(15%)、試験の結果(70%)の予定。
教科書・テキスト	心理科学研究会編「育ちあう乳幼児心理学」有斐閣
参考書	<p>繁多進監修 向田久美子・石井正子編著「新 乳幼児発達心理学」福村出版 岡本 依子他著「エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学」新曜社 岡本夏木他監修「発達心理学辞典」ミネルヴァ書房 森上史朗・柏女霊峰編「保育用語辞典」ミネルヴァ書房</p>
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	<p>毎回講義の初めに前回講義の内容に関する振り返りを行うので、復習しておくこと。 授業で扱えるトピックには限りがあるので、各自教科書以外にも参考書などで積極的に学びを深めることを期待する。子ども達を取り巻く問題について新聞等では何が取り上げられているのかを自分で調べて授業内容と関連づけていくこと。</p>
履修上の留意事項	発達心理学の学びを前提として授業を進めるので、単位を取得済であることが望ましい。
オフィスアワー	水曜日の昼休み
担当教員への連絡方法	takaki_aoyama@yahoo.co.jp (@は半角に) 件名にクラスと名前を入力すること。
その他	